

「呼びかけ人の集い」に約60名がご出席

12月7日(水)、ご案内のように原町市福社会館で、第1回の「はらまち九条の会呼びかけ人の集い12.7」が開催されました。呼びかけ人180名のうち約60名が出席し、経過報告、福島大学名誉教授真木實彦氏の基調講演、そして会のあり方などへの意見が活発に出されました。集いの様子は、<資料「報告書」>でご覧いただきたいと思ひます。



「福島民報」「福島民報」「日刊赤旗」の報道のうち、左は12月10日付「赤旗」の記事「ヒー」です。

「九条の会」島原町で集い

「はらまち九条の会」(平田慶幸会長)はこのほど、福島県原町市福社会館で「呼びかけ人の集い」を開き、県九条の会の真木實彦事務局長が「憲法九条をめぐる現状について」と題して講演をしました。呼びかけ人や初めて足を運んだ人など四十人が参加しました。

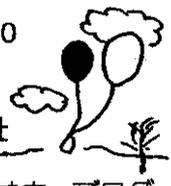
真木事務局長は、憲法改定の主要な論点を三つあげて説明するとともに、九条の会の運動の現状と役割を報告し、「できるかぎり援助をしていきます。九条を守る運動を発展させていきましょう」と話しました。

参加者からは、「自民党の改憲案がなぜ悪いかは理解されていない。一つひとつ説明が必要」「会の知名度を上げるために宣伝をしていきたい」「小さい会を開いて意見交流の場を増やしたい」「もっと学習をしていきたい」などの意見が出されました。

「集い」で寄せられたメッセージ (要旨のみ・ご容赦ください)

- 憲法調査会が答申を出してきて、とうとうここまで来てしまったか、という焦りがあって過ごしてきました。原町市でも「九条の会」が出来、心強い思いです。
 - 学習会を開いていただきたい。署名活動を広げていきたい。(畑島幸子)
 - 何も罪もない人々が、武器商人の利益のために命を奪われないような地球にしたい。世界の手本となる憲法を守ろう！若い人への理解を深めることに努めよう。(桜井勝延)
 - 『詩経』のなかに「国家で亡びない国家はない。どんな国家でも必ず滅亡するのだ」というフレーズを見つけ、わだかまっていたものがストーンと落ち、力が抜けた気分になりました。(略) 軍事予算をゼロにすることによって、膨大な国家の負債を少しでも減額し、あるいは、高齢化・少子化が進行するなかでの福祉を後退させないための予算措置をすることが、本当の意味での護民だろうと思ひます。護国よりも護民。
- 「九条の会」は外に向かって展開しなければ実現できません。また9条を変えるための手段として、国民の私権や基本的人権が制限されようとするとき、そのことに黙ってはいけません。たとえば次の通常国会で強行採決されるおそれのある「組織的犯罪処罰法改正案」(共謀罪)。この法案が成立すると、「はらまち九条の会」そのものの存続が危ぶれます。「九条を守るという一点でつよい活動する」だけでいいのだろうか。(若松丈太郎)

- <読書案内>
- 『憲法を変えて戦争へ行こう』岩波ブックレット ¥500
 - 『憲法九条、未来をひらく』岩波ブックレット ¥500
 - 『憲法九条、いまこそ旬』岩波ブックレット ¥500
 - 日本ペンクラブ編『それでも私は戦争に反対します』平凡社
 - 昭和22年文部省発行『新しい憲法のはなし』



この九条の会ニュースの名を「九条ブログはらまち」としました。ブログはウェブログ Weblogで、パソコンのウェブサイト(インターネット上のサイト(場所))のこと。

